



確かな学力の向上をめざして【1月】

■ 幼保の育ちをベースにした学びの連続性 ■

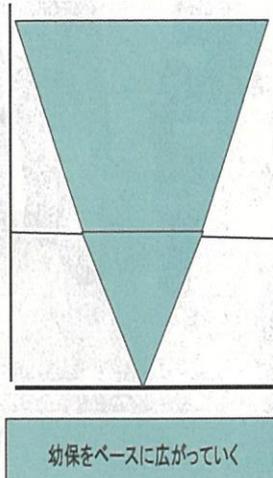
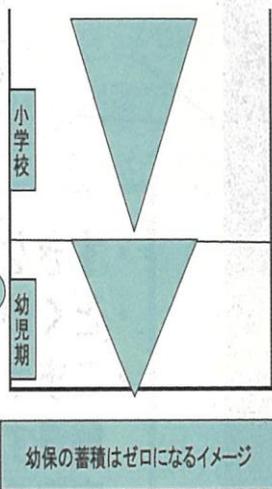
今の学年のまとめをしながら、次の学年を意識する3学期。各校種間の接続も大切になってきます。幼児教育と学校教育の接続から、『幼保の育ちをベースにした学びの連続性』について考えてみましょう。



Point

「幼保の育ちをベースに、つなげる意識を持って」

幼児期に培った力を土台にして小学校につなげるという意識を大切にしましょう。



発想の転換が鍵！「子どもたちの育ちや学び」をゼロにせず、ベースにするという教師の発想が、子どもたちの力を伸ばすことになります。



R4 年度中央協議会資料より



幼保小接続を「顔の見える連携・接続」にするために

管理職同士のつながり

これまでは・・・

話し合いの中心が特別な支援を要する子どもに関する情報交換



今後の取組では・・・

上記に加えて、接続期のすべての子どもたちの姿について語り合い、各小学校区で目指す子どもの姿を共有する話し合い

連携推進担当者同士、交流担当者同士のつながり

これまでは・・・

交流会でどんなことをするのかを話し合う連携



今後の取組では・・・

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(*)を視点に語り合い、相互の教育内容や指導方法の理解を深める連携

子ども同士のつながり

これまでは・・・

子ども同士の触れ合いを目的とした交流会の実施



今後の取組では・・・

子ども同士の触れ合いを通して、双方の学習のねらいを達成することを目的とした互恵性のある交流の実施



幼児教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育のどちらの接続にも「尊敬と信頼」の気持ちで相互理解することが大切です。連携・接続を通して、日々の教育を見つめ直し、教育観を豊かにすることは、指導力の向上にもつながります。



(*) 幼保小接続リーフレットに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を載せています。

